

1. はじめに

2015年1月に当委員会が発表した提言の3テーマ(エンターテイメント、MICE、ウェルネス)のうち、当分科会では、ウェルネスに焦点を絞り、関西の健康医療関連産業やアカデミアのポテンシャル、高齢化が進む世界の国々の課題と健康へのニーズ、世界のウェルネスツーリズムの状況等の研究を行った。

本提言では、大阪・関西IRが目指す価値創造型・産学連携型ウェルネスリゾートについてコンセプトや事業イメージ等を提示。大阪府市が募集要項をIRオペレーターに提示する際、「ウェルネスIR」をキーコンセプトの一つに位置づけることを必須条件として求めるとともに、IRオペレーターに対して産学連携によるIRの整備を提言する。本提言がIRの新しい未来を拓き、人々の幸せと関西・日本の成長に貢献する一助になれば幸いである。

2. 現状分析

(1) 世界におけるウェルネスツーリズム市場の拡大

- 健康・癒し・美等の要素を主目的とするウェルネスツーリズム市場が世界的に拡大。顧客層は主に富裕層と新中間層で、IRと親和性が高い。
- アジアをはじめとする新興国の富裕層と新中間層の著しい増大。
- 消費金額が高額な国内外のウェルネス来訪者がリピーターとなり、多額な内需をもたらす。

(2) 日本や諸外国が直面する高齢化と健康ニーズ

- 日本の高齢化率は25%を超え、今後多くの国が同様の水準に到達し、健康課題は世界共通の課題。アジア等の新興国においても生活習慣病や認知症の増加は大きな社会問題。
- 約98%の人が人生において健康は何よりも大切。

(3) 関西におけるウェルネス分野のポテンシャル

- 関西は、健康・医療、ライフサイエンス分野において、大学・研究機関、企業等が集積し、我が国有数の産業クラスターを形成。ウェルネス分野における高いポテンシャル。
- 多くの医科系大学が集積、連携するアカデミア資源。
- 関西イノベーション国際戦略総合特区、国家戦略特区に指定。関西は、世界規模で増えるウェルネスツーリズム市場を狙える。

3. IRとウェルネスを融合させる意義

(1) 関西経済への効果: 関西健康医療産業クラスター形成に貢献

壮大なスケールの「ウェルネスIR」を関西健康医療産業クラスターの一翼と位置づける。クオリティが高いIRのウェルネスサービスがクラスターの研究実績や先進技術と連携することにより、シナジー効果を生み出す。

(2) IR事業への効果: 日本オリジナル、関西オリジナルのIR施設

世界に林立する従前のIRモデルに甘んじることなく、新しい価値を生み出し続ける創造的な次世代型IRモデルをウェルネスを取り入れることで自らの強みを活かしつつ、成長拡大するウェルネスツーリズム市場を取り込む。「ウェルネスIR」という強い軸を持ち、国際的な競争に勝つ。

(3) 市民生活への効果: 負の部分への対策と陽の部分の提供

<負の部分への対策> ギャンブル依存について気軽に相談できるカウンセリング施設、自己排除プログラムの導入等はもちろんのこと、ICチップカード等の最先端テクノロジーを用いて、依存症対策を講じるべき。

<陽の部分の提供> 健全なゲーミングは、ストレス発散の一つとして健康の保持増進や、認知症等の発症や進行予防にも活用できる可能性が高く、先進的な健康サービスや、新しい産業の創生につながる事が期待される。IRの機能のごく一部であるカジノだけでなく、リラクゼーション施設、エンターテイメント等が統合的に整備されるIRは、人々を心身ともに健康にする「ウェルネスIR」としての役割を担える。

4. 提言

【提言1】 IR内におけるウェルネスサービス産業の推進拠点の整備を

- ・「ウェルネス」をIRのキーコンテンツの一つに位置付け、人々の最高欲求である3つのライフ(生命・生活・人生)を豊かにする世界市場を創造すべき。
- ・依存症研究、認知症予防研究施設をつくり、IRの負のイメージを払拭し、陽のイメージを広め、世論形成に資する。
- ・常に新しい健康価値を提供できるウェルネスクラスターとしてのIRを目指す。ヒト、モノ、情報のハブ機能を担う「ウェルネス・ゲートセンター」の整備を提言する。

●「ウェルネス・ゲートセンター」の役割と機能

- ・「ウェルネス・ゲートセンター」は、顧客、事業者、研究者を結ぶゲートでありハブの役割を担う。
- ・①テイラーメイドなプログラム作成、②参加事業者と顧客のマッチングとビッグデータの集積・分析、③オープンイノベーション、④認知症対策・依存症対策などの研究機能等を有する。(なお、その費用は、カジノへの入場料やIR事業者からの収益の一部を充てる。)
- ・構成部門として、①総合コンサルティング部門、②先端ドック部門、③ウェルネス・ビッグデータ管理部門、④オープンイノベーション部門、⑤産官学連携によるウェルネス研究部門等。

●「ウェルネス・ゲートセンター」とIR施設群の連携方法

「ウェルネス・ゲートセンター」は、IRオペレーター等が運営するホテル、エンターテイメント、スパ、エステ、フィットネス、飲食店、物販店等と連携。WIN-WINの関係で、相互送客等や、同センターで集約した情報を基に健康付加価値がプラスされた商品、サービス、プログラム等をIRの諸施設を通じて顧客に提供することにより、質の高いヘルスケアサービスとIR集客力の向上に寄与。

【提言2】 IR整備を期に、産学が連携した仕組みづくりの促進を

産学連携・価値創造型「ウェルネスIR」を実現するためには、運営母体に健康・医療に係る専門力が必要となる。企画から運営に至るウェルネスに関するサービスを提供・支援するための「関西ウェルネスリゾート・コンソーシアム(仮称)」を産学が一体となって新設することを提言する。

●「関西ウェルネスリゾート・コンソーシアム(仮称)」の役割と機能

- ・「関西ウェルネスリゾート・コンソーシアム(仮称)」は、研究機関や大学、リゾート・食文化・スポーツ・住宅・美容関連企業などから構成される産学連携組織で、「ウェルネス・ゲートセンター」のカウンターパートとなる。
- ・夢洲におけるウェルネス事業に携る意思を有する医科系大学及び健康・医療関連企業等が参加可能な組織とし、IR応募者、またIR事業者との本事業に関する窓口は同コンソーシアムに一本化する。

【提言3】 夢洲全体のまちづくりでは「ウェルネス」のコンセプトの位置づけを

- ・夢洲は190haもの広大な敷地であり、IRのみで使い切れる規模ではない。区域選定において大阪・関西が選ばれるためには、IR用地以外を含む夢洲全体の将来ビジョンを描く必要がある。夢洲全体のまちづくりのコンセプトの柱の1つを「ウェルネス」と位置づけ、心と身体健康と幸せをもたらすまちづくりを目指すことを提言する。
- ・IR以外の導入機能として、IR内のウェルネス・ゲートセンターとの連携、相乗効果により、高度で幅広いウェルネスニーズに対応する都市機能として、「滞在保養機能」「ヘルスケア機能」「研究・人材育成機能」分野を重点にすべき。

●長期でのウェルネスサービスニーズに応える「滞在保養機能」

長期滞在型の会員制リゾートホテル、サービスアパートメント等を導入。IR内の「ウェルネス・ゲートセンター」との連携により、長期滞在だからこそ可能な生活習慣改善プログラム等を提供。認知症予防等を含む多様なサービスを提供するシニア向け住宅等を導入。心身ともに健康でアクティブなリタイアメントライフをサポート。

●最先端のヘルスケアを提供する「ヘルスケア機能」

「アンチエイジング・ヘルス」「ブレイン・ヘルス」「プレジジョン・ヘルス」等最先端のヘルスケアを提供する特化型クリニックやインターナショナルホスピタル等を誘致。

●ウェルネス分野の人材を呼び込み、育む「研究・人材育成機能」

最先端のウェルネスサービスの実証拠点であることを活かし、ウェルネス分野の研究開発や人材育成に取り組む大学や専門学校、あるいは企業研究施設等の導入。